

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

- (1) 生徒実態の把握（学力、生活、健康）
- (2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
- (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
 - ア 生徒の実態やニーズを見据えた・募集人数の在り方と広報の検討
 - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化についての検討
 - ウ 単位修得のための環境整備

※ 運営委員会を毎週開催し、そのメンバーからなる校務運営推進チーム及び学校評価チームを機能的に運営し各種課題解決を図り平成 30 年度には 80%の処理をめざす。

※ 学力実態の把握に向け、各教科・科目において基礎テストの実施やレポート課題における解答等の分析を通して学力実態把握に努める。

※ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化について府教育委員会と協議を継続する。

2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
 - ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開
- (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善
 - ア 一人で取り組むことができ、満足感の得られるレポートの作成及び添削指導
 - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
 - ウ 研究・公開スクーリングの実施
- (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
 - ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立
 - イ スクーリングに出席できない生徒等のサポート体制
⇒NHK 高校講座の利用や ICT を活用した e-ラーニングによる教育システム（スタイル）の研究、試行、実施
 - ウ 生徒のニーズにあった開設科目の設定（スクラップアンドビルト）
 - エ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立

(4) 教職員研修の充実

※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価を毎年 3%ずつ向上させ H30 年度には 90%をめざす。

※ 1 範囲の課題を修了した生徒の全教科平均の単位修得率について毎年 3%ずつ向上させ、H30 年度には 80%をめざす。

※ 研究・公開スクーリングの教科毎の開催について、実施率を毎年 100%とする。

※ 初任者等経験の少ない教職員の校外研修への積極的な参加や校内初任者研修の更なる充実を図り、平成 30 年度には「学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定率 90%をめざす。

3 生徒支援と相談体制の強化・充実

- (1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談・懇談や相談会の実施
- (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び対応についての情報交換の充実
- (3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施
- (4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及特別支援委員会における「個別的教育支援計画」の作成
- (5) 精神科医及び臨床心理士や S C 等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り

※ 生徒向け学校教育自己診断における「困った時に相談できる先生がいるか」の肯定的評価を H30 年度には 75%をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活はあなたにとって有意義なものになっていますか」の肯定的評価を H30 年度には 80%をめざす。

4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実

- (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
- (2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実及びそれに向けた教職員研修の実施
- (3) 総合的な学習の時間の新たな目標設定と有効活用

※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう系統的な進路指導が行われている」の肯定的評価を H30 年度には 75%、また生徒の「将来の進路について考える機会がある」について肯定的評価を H30 年度には 80%をめざす。

5 情報発信・広報活動の充実及び ICT を活用した校務の効率化

- (1) 情報発信の充実
 - ア 学校 HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容充実
 - イ インフォメーションディスプレイの活用
- (2) 広報活動の充実
 - ア 学校説明会の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]				学校協議会からの意見	
診断結果の一部抜粋 *表中の数字は、回答の%を示している。				第 1 回 平成 28 年 7 月 20 日（月）午後 3 時から午後 5 時まで <委員>初任者や経験の少ない教員の研修について ⇒「若桃塾」と称して実施している。 初任者は、毎週木曜日 18～19 時。月に 1 回は 4 年目までの教諭も参加。 准校長、教頭、各分掌長が順番に担当し、2 月には初任者の発表の場を設けている。実施して 5 年目になり、ベテラン教員も参加可能	
【通信制の学習システムについて】					
項目 54	教員	生徒	保護者		
通信制の学習システムが理解できているか	61.7	95.2	85.6		
(昨年度集計)	58.8	93.8	82.5		
(増減)	+2.9	+1.4	+3.1		
*教員へは生徒の、保護者へは生徒と保護者自身の理解度を問うている。					

*生徒は、学習が進んでいない生徒の、その理由でシステムが理解できないからと答えた生徒の割合を引いたパーセンテージ。

【学習について】

項目 10	教員	生徒	保護者
レポートは一人で完成できる内容となっているか	90.2	91.0	・・・
(昨年度集計)	90.4	89.9	・・・
(増減)	▲0.2	+1.1	・・・

項目 11	教員	生徒	保護者
添削は学習の理解を深めるのに役立っているか	90.2	85.3	・・・
(昨年度集計)	96.2	89.8	・・・
(増減)	▲6.0	▲4.5	・・・

項目 15	教員	生徒	保護者
スクーリングは分かりやすく学習の助けになったか	90.2	90.9	・・・
(昨年度集計)	92.3	89.0	・・・
(増減)	▲2.1	+1.9	・・・

【生徒の状況】

項目 57	教員	生徒	保護者
レポートの提出期限を守れない生徒が多い	76.6	・・・	・・・
(昨年度集計)	70.0	・・・	・・・
(増減)	+6.6	・・・	・・・

【組織体制について】

項目 21	教員	生徒	保護者
教育相談体制が整備されている。	100.0	63.7	・・・
(昨年度集計)	86.5	58.8	・・・
(増減)	+13.5	+4.9	・・・

*生徒は「気軽に、質問や相談できる先生はいますか」を反映

項目 22	教員	生徒	保護者
生徒指導において、家庭及び関係諸機関との緊密な連携がとれている。	68.6	・・・	・・・
(昨年度集計)	67.3	・・・	・・・
(増減)	+1.3	・・・	・・・

項目 19	教員	生徒	保護者
問題行動発生時の対応体制が整っている	64.0	・・・	・・・
(昨年度集計)	61.5	・・・	・・・
(増減)	+2.5	・・・	・・・

通信制の学習システム(項目 54)は、レポート(添削指導)とスクーリング(面接指導)からなっている。勉強の仕方やレポートの書き方・提出方法などについて、丁寧な説明を行っている結果、生徒と保護者ともほぼ理解していると思われる。

自学自習が大前提となる通信制では、入学者の低年齢化(不登校等を理由に通信制を選択する者の増加)に伴い、自学自習という基本姿勢が希薄な生徒が増加している。その影響の一つとしてレポートの提出期限(項目 57)を守れないと感じる教員の割合が、毎年高い割合となっている。学習完了目標日を設けるなどして、提出期限を守るよう指導したが、アンケート結果からは、特に効果が表れたとは言い難い。引き続き適切な指導をしていく必要性を感じる。

基礎学力が不足している生徒が増加の傾向にあり、自学自習が出来ず、面接指導に救いを求める生徒の増加があると感じる教員が多い。このような生徒のニーズ(基礎基本を学習したい生徒)に対して、対応できる具体的支援(申請制で補習を実施するなど)を次年度以降講じる必要がある。

生徒アンケートにおけるレポートについて、項目 10。「レポートは自分の努力で完成できる内容となっている」では、昨年とほぼ同じ割合であった。項目 11。「レポート添削は学習の理解を深めるのに役立っている」では、減少しているものの8割を超える生徒が満足している。スクーリングにおいても、項目 15。「スクーリングの内容はわかりやすく、学習の手助けになっている」では、9割を超える満足感を得ている。これは、多様なニーズを持つ個々の生徒に対して、教員が個別指導を中心とした手厚いサポートを行なっているからと考えられる。

教員評価において、項目 10、項目 11、項目 15で、昨年度に比べてすべて減少しているものの比較的高い自己評価になっている。2回の公開スクーリング見学月間や各教科で実施した研究スクーリング、またレポート作成方法についての各教科からの報告や添削レポートの公開により、自分の教科だけでなく他教科のスクーリングやレポート作成方法・添削に触れる機会が増えるなど、相互研鑽した結果が良い方向に向いてきたと考えられる。

生徒相談体制については、すべての教員が、項目 21。「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」と捉えている。しかし「気軽に、質問や相談できる先生はいる」と答えた生徒は昨年より4.9ポイント上がっているものの63.7%にとどまっている現状であり、教員と生徒の意識に依然として開きがあり、引き続き生徒が質問・相談しやすい職員室、面接指導室及び相談室の環境整備、並びに教員の意識改善を行う必要がある。

また、項目 19。「問題行動発生時の速やかな体制が整っている」と考えている教員は、昨年度から2.5ポイント増えた。これは継続して取り組んできた組織的対応の強化が実りつつあることを示した数字であると思われる。引き続き、生徒状況の把握とともに問題事象に対して組織的対応ができるよう体制強化に努めたい。

である。

第2回 平成28年12月2日(金)午後3時から午後5時まで
<委員>「ほとりカフェ」の利用者が減っているのはなぜですか。
⇒昨年度は、府の予算が措置されていたため、回数・期間が十分に確保できた。

今年は予算が措置されなかったため、2範囲からの実施となった。またそれに伴い回数や期間が昨年度と比較して十分に確保できなかった。しかし、相対的な利用者に変化はないと思われる。

<委員>スクーリングの時間帯にカフェの開催を外したのは、スクーリングの時間にカフェに参加してしまう生徒が多かったからですか。

⇒スクーリングの時数が足りている生徒は、HRや総合的な学習の時間に参加せずにカフェに参加してしまうことがよく見られた。教育的配慮から今年度はそういう生徒を出さないためにもスクーリングの時間帯では「ほとりカフェ」は開催していない。

<委員>「ほとりカフェ」の利用者はいつも同じメンバーですか。
⇒ほとんど同じメンバーです。

第3回 平成29年2月2日(木)午後3時から午後5時まで
<委員>スクーリングの出席管理システムの安定的運用とはどういうことか。現在運用しているのか。

⇒実際に運用している。個人的に管理・運用しているシステムであるが、組織として誰もが管理・運用できることをめざしていく。

<委員>「ほとりカフェ」の実施時期が遅れた理由はなにか。
⇒予算の関係で、校長マネジメントにより2範囲からスタートした。
<委員>通信制であるが、生徒へのレポート添削アンケートはどのようなに行ったのか。

⇒活動生全員に対し郵送でアンケート配付して、回答を得た。

<委員>出席管理システムというのは具体的にどのようなものなのか。

⇒生徒に配付したバーコードシールを読み込ませて、出校状況を把握するシステムのことである。

<委員>レポートの提出はどのように行われているのか。

⇒第4種郵便で郵送が可能である。もしくは本校東西館2階にあるレポートボックスに直接提出させている。

<委員>アンケートにおいて評価するところが一律にはかれない部分がある。アンケートの結果を一般的な17、18歳の若者の平均値と比較し、一般と比較してサポートが必要な生徒が通信制の課程には多いことを、理解してもらえるようにデータとして出してみてもどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する 教育システムの確立</p>	(1) 生徒実態の把握	<p>(1) 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析結果を次年度の経営計画に十分に反映させるため実施時期を検討して実施する。 実施方法について、検討工夫し回答率の向上を図る。 入学生が通信制の学習を円滑に進められるよう、入学時早々のスクーリングにて基礎学力の把握(基礎テスト等)に取り組むとともに、レポート添削において生徒の学習状況を把握し学習支援の在り方について検討する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断の回答率向上 (H27年度は12.9%) 数・英での基礎テストの実施(中卒1年次での実施率 H27年度 100%) レポート課題における解答等の分析を通して、学習支援の在り方について検討した各教科からの報告による 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断を11月に実施し210名(昨年度より24名減)から回答を得た。分析結果を教職員と情報共有し、次年度教育計画に生かしていく。自己診断回収率(11.5%) (△) 英語科において1年次科目(英語I入門、コミュニケーション英語I)の1範囲の最初のスクーリングで出席者全員に実施。(昼間部238名、日夜間部58名)、数学科においては、数学I入門の科目で、実施。(昼間部14名、日夜間部14名) (○) 添削レポートの公開および分析 (○)
	(2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会を更に機能強化し、改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。 運営委員会メンバーを核とした校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの活動内容の充実を図る。 	<p>(2) 運営委員会の毎週開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの取組内容とその件数 (H27年度 19回) 	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会内の学校評価推進チームにおいては、学校教育自己診断、スクーリング評価、レポート評価について、内容の検討を行った。7回実施。(○) 校務運営推進チームについては、分掌再編に向け検討・協議を5回実施。来年度は新体制となる。(◎)
	(3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し	<p>(3) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立学校として府内唯一の通信制の生徒の実態を把握し、ニーズの再確認及び通信制の機能強化について、引き続き校内議論を進め、府教育委員会に伝える <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリング出席管理システムの安定的な運用及び生徒ニーズに合った更なるシステム開発。(生徒が各教科・科目のスクーリング出席状況をリアルタイムで把握でき、学習の進行管理の助けとなり、また、担任は生徒の学習進行状況を常時把握できるシステムの構築) 	<p>(3) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での検討(研修等)回数 (H27年度 2回) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合ネットワーク上での運用 メンテナンスを組織として行う 	<p>(3)ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回校内研修を10月末に実施(配慮を必要とする生徒の情報共有⇒実態把握)、第2回目は、通信制の機能強化について、12月に次の3つのテーマで協議を実施し、共通理解を深めた。「学習期限のあり方」「単位認定のあり方」「2範囲制について」(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務処理システム係[KSK](8名)を立ち上げ、メンテナンスを組織として取り組むため、システムの運用に関する研修を、隔週で実施し成果を収めた。(◎)

<p>2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上</p>	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成 ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開</p> <p>(2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善 ア 一人で取り組むことができる、満足感の得られるレポートの作成及び添削指導 イ レポート作成に役立つスクーリングの展開</p> <p>ウ 研究・公開スクーリングの実施</p> <p>(3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入 ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立</p> <p>イ スクーリングに出席できない生徒のサポート体制</p> <p>ウ 生徒のニーズにあった開設科目の設定(スクラップアンドビルド)</p> <p>エ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立</p> <p>(4) 教職員研修の充実</p>	<p>(1) ア ・「確かな学力」を育成するため、基礎的内容を分かりやすく学習できるよう新たに開設した科目の検証</p> <p>(2) ア、イ ・H27年度に実施したレポート添削及びスクーリング評価の結果、学校教育自己診断結果の分析を通し、レポート作成及びスクーリング内容及び指導法の改善を行う ・教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確化 ・レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討</p> <p>ウ 全スクーリングの公開化、教科内研究スクーリングの実施。 ・スクーリング見学月間の実施(年2回、6月、11月) ・教科内研究スクーリング後に研究協議を全教科で実施する。(6月、11月)</p> <p>(3) ア ・基礎学力充実のためスクーリングのない時間帯や夏季休業期間等を利用した取組みの検討・実施(補充・補習・集中スクーリング等)。 ・面接指導エリアの整備・充実 ・学習相談コーナーの設置・充実</p> <p>イ ・ICTを活用したe-ラーニングによる教育システムの試行 ・NHK高校講座さらなる活用及びスクーリング代替の推進</p> <p>ウ 生徒のニーズの把握と開設科目基準の検討</p> <p>エ ・国・数・英の進学者対象講習の実施</p> <p>(4) ・レポート作成・添削、スクーリングの指導力等向上や生徒の基礎学力充実に向けた取り組み内容の検討に関する校内研修の実施(7・1月) ・初任者等経験の少ない教員の授業力向上に向け、校外研究授業への積極的参加の奨励 ・校外研修参加教員による、報告会の実施</p>	<p>(1) ア ・生徒の選択状況と自己診断での「レポートは自分で完成できる内容であるか」の肯定率の向上(H27年度89.9%)</p> <p>(2) ア、イ ・レポート添削評価3.1以上8割(H27年度R72%)、スクーリング評価3.3以上がそれぞれ全教員の9割以上(H27年度S91%)。 ・学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価が85%以上(H27年度R90%、S89%)</p> <p>ウ ・国・社・数・理・体・芸・英・外・家・情(商・工)での実施率(100%)(H27年度100%) ・見学感想票の提出率100%(H27年度100%)</p> <p>(3) ア ・講習会等への参加生徒数 ・自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている」の教員意識の向上(H27年度94%)</p> <p>イ 取組みの実施内容 ・NHK高校講座のスクーリング代替実施の教科・科目数(H27年度1教科2科目)</p> <p>ウ 新しく開設した科目及び閉講した科目の検証</p> <p>エ 講習会の開催と参加生徒数(H27年度42名)</p> <p>(4) 校内研修の実施内容 ・校内研修の取り組み内容及び実践に向けた取り組み ・研究授業への参加人数(回数)(H27年度49回) ・研修報告会の件数(新規)</p>	<p>(1) ア 「レポートは自分で完成できる内容であるか」(91.0%) (○) ・今年度の教育課程から、数学科の科目において、確かな学力育成のため「数学活用」を導入。科目内容の生徒の感想は「実生活で活かせる」、「古代の数に関することを知ることができて興味深かった」等肯定的な感想が多く見られた。数学が苦手な生徒も興味関心を持つことができた。 (◎)</p> <p>(2) ア、イ ・レポート評価3.1以上 第1回(76.2%)第2回(73.8%) (△) ・スクーリング評価3.3以上(88.1%) (△) ・学校教育自己診断レポート添削肯定評価(85.3%) (○) スクーリング内容肯定的評価(90.9%) (○) ・各教科・科目から「レポート作成方法について」アンケートを実施し、他教科・科目の工夫等を知り、各教科会議で検討する際の有効な資料となった。(◎)</p> <p>ウ ・研究スクーリングは、実施率(100%)。6月参加人数と回数。(7回、44名)、11月参加人数と回数。(5回、33名)(○) ・スクーリング見学感想用紙の提出率、第1回・第2回ともに100%。(○)</p> <p>(3) ア ・自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」についての教員意識は82.4% (△) ・基礎学力充実のために、個別指導や補習を実施している。数学科では、夏季休業中に数学I入門の補習、受験対策等の内容を学習。(○)</p> <p>イ ・NHK高校講座のスクーリング代替は、5教科7科目(日本史Bと地理Bに加え、生物基礎、地学基礎、家庭総合、C英語I、社会と情報)に拡充。利用人数(日本史B8名、地理B9名、生物基礎11名、地学基礎6名、家庭総合4名、C英語I3名、社会と情報19名)(◎) ・総合学習の時間を利用し、NHK高校講座を周知徹底。 (○)</p> <p>ウ ・生徒のニーズに合わせ社会科(学)「社会入門」、家庭科(学)「ライフスタイル」を開講し、「倫理講読」「服飾文化」を開講。次年度以降もスクラップアンドビルドする。 (◎)</p> <p>エ ・数学科では、看護系大学や専門学校に進学希望生徒を対象に、夏期講習を実施。(○) ・国語科では、小論文添削や過去問の解説など、生徒個々の進路に合わせた個別指導を実施。(○) ・英語科は、進学希望者を対象に夏期講習会を実施。申込者20名、出席者延べ43名。(○)</p> <p>(4) ・研究授業への参加人数と回数(11人25回)(△) ・職員会議時に、研修会参加者による報告、10回実施 (◎)</p>
--------------------------------------	---	--	---	--

<p>3 生徒支援と相談体制の強化・充実</p>	<p>(1) 生徒及び保護者(未成年生徒の)との面談・懇談や相談会の実施</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び対応についての情報交換の充実</p> <p>(3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施</p> <p>(4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び特別支援委員会における「個別の教育支援計画の作成」</p> <p>(5) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り</p>	<p>(1) 生徒及び保護者との面談・懇談を行い、支援を必要とする生徒を抽出、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携した組織的な支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中卒新入生の三者面談の実施 ・生徒の居場所づくりの一環として、精神保健福祉士等を配置した「ほとりカフェ」の効果的な運用 <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初(5、10月)に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かしていく。また、「保護者の会」との連携を密にして、ニーズの把握に努める。</p> <p>(4) 生徒問題行動発生時の組織的対応の構築と強化</p> <p>(5) 本校生を多く担当している専門医・SCや保護者と生徒の心身面に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室の環境整備と広報の充実 	<p>(1) 支援生徒数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援生徒の学習活動の進行状況 ・中卒新入生の三者面談・保護者面談実施率(H27年度31%) ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を5%アップさせる。(H27年度59%) <p>(2)(3) 研修・勉強会等実施内容</p> <p>(4) 生徒問題行動発生時の対応状況</p> <p>(5) 面談、相談回数 ケース会議の実施回数(H27年度ケース会議5回、相談回数43回、SC面談回数30回)</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を作成した15名の生徒について、学習活動の進行状況等を、支援委員会を定期的に開催するし情報共有した結果、意欲的に学習し科目習得の成果が顕著であった生徒が10名。(◎) ・中卒新入生の三者面談の実施率32.4% (○) ・「安心して学校生活を送れている」81%(H27 81.7) (○) ・「気軽に相談できる先生がいる」63.7%(H27 58.8) (◎) ・「ほとりカフェ」について、今年度は2範囲からの実施となった関係で、回数は、昨年度と比較して少なくなったが、スクーリングの時間帯を外して実施したので、教員、生徒ともに好評であった。実施回数11回、利用生徒数のべ150名。(○) <p>(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会主催で、5月と10月に教員研修を実施し、配慮必要とする生徒情報のより詳細な連絡・報告を行い教員間で情報共有に努めた。9・12月には、保護者の会と連携して「発達障がい」に係る研修を、また1月には、外部講師を招いてLGBTについての研修を行った。(◎) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動発生時には、生徒部を中心に担任と連携しながら対応し、組織的な対応をしている(4件)(○) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議12回(◎) ・相談件数43回(○) ・SC面談回数36回(○)
<p>4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実に向けた教職員研修の実施</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し、A「ワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。(社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身につけるための講座を開設する。) ・教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会の実施 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者対象講習の実施 ・看護医療専門学校への進学希望者対象の説明会の実施 ・保護者向け進路説明会の開催 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア前教育として実施する講座の開設講座数及び講座への参加者数(H27年度3講座、44名) ・校内研修の参加人数及び教員満足度 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設講習数及び講習、説明会への参加者数(H27年度講習数3・参加数44名、就職指導説明会37名・面接指導説明会25名) ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数(H27年度1名) <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者内定率(H27年度89%) 	<p>(1)</p> <p>3講座、35名(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履歴書、面接対策講座：実施回数1回、参加数24名 ・ビジネスナー講座：実施回数1回、参加数7名 ・コミュニケーション講座：実施回数1回、参加数4名 <ul style="list-style-type: none"> ・進学説明会：実施回数2回、参加数50名 ・大学、専門学校説明会：実施回数2回、参加数110名 ・看護医療系説明会：実施回数2回、参加数9名 ・指定校推薦入試説明会：実施回数2回、参加数16名 ・センター試験説明会：実施回数2回、参加数11名 ・通信制大学説明会：実施回数2回、参加数21名 ・進路説明会：実施回数2回、参加数47名 ・保護者向け進路説明会：実施回数1回 参加数30名 ・就職説明会：実施回数1回、参加数50名 ・ハローワーク、求人票閲覧会：実施回数5回 参加数延べ134名 ・合同求人説明会：実施回数1回、参加数13名 ・就職希望者内定率95.8%(○) <p>(◎)</p>
<p>5 情報発信・広報活動の充実</p>	<p>(1) 情報発信の充実 ア HP、携帯連絡メール(桃通メール)、桃谷通信の内容充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア 学校説明会の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。 ・携帯連絡メール(桃通メール)を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイの有効活用 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一された内容の説明を行うため、説明会用スライド及び学校紹介用DVDの改善・充実。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科開設ページ100%(H27年度33%) ・HPへの年間アクセス数(H27年度14万6千回) ・携帯連絡メール(桃通メール)への登録件数と発信回数(H27年度642名61回) ・インフォメーションディスプレイの更新頻度(H27年度週1回) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の分かり易さ」肯定的評価の向上(H27年度85%) 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科開設ホームページ、71.4%(10/14教科)(△) ・HPへのアクセス数150,221回(○) ・桃通メール登録件数598名(○) ・桃通メール発信回数34回(△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイ掲載の情報管理の効率化を図り、掲載漏れや誤情報等がないようにした。各種教務連絡や行事、講習会等の案内にも役立てることができた。更新頻度：週当たり1.5回(◎) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に第1回学校説明会、1月に第2回学校説明会を実施した。第3回目は2月5日に実施。第2回目にアンケートを実施「分かり易さ」84.4%(○)